

【全体概要】

野菜の加工業務用需要が拡大していることから、富山県では加工業務用野菜として、新たにほうれんそうとトマトを選定し、安定生産技術の確立に向けた取組みを展開している。

令和2年度(取組み1年目)は、両品目について加工適性及び収量性が高い品種と低コスト省力化に向けた機械化体系を検討した。

新品種・新技術等の概要

●加工業務用ほうれんそう(露地栽培)

(1)加工業務用需要に対応した品種の検討

(供試品種:「プログレス」、「クロノス」、「福兵衛」、「スパイダーZ」)

(2)低コスト省力化のための機械化体系の検討

(供試機械:にんじん用うね立て同時は種機(写真1))



写真1 にんじん用うね立て同時は種機によるほうれんそうのは種作業

●加工業務用トマト(露地栽培)

(1)加工適性及び収量性の高い品種の選定

(供試品種:「なつのしゅん」、「らくゆたか」、「NDM736TM」)

(2)低コスト省力化のための機械化体系の検討

(供試機械:汎用野菜移植機(写真2)
育苗様式:セル苗(72穴セルトレイ、128穴セルトレイ))



写真2 汎用野菜移植機によるトマトのセル苗移植作業

主な取組内容

【実証ほの設置】

・加工業務用ほうれんそう及びトマトの安定生産技術等の実証ほの設置

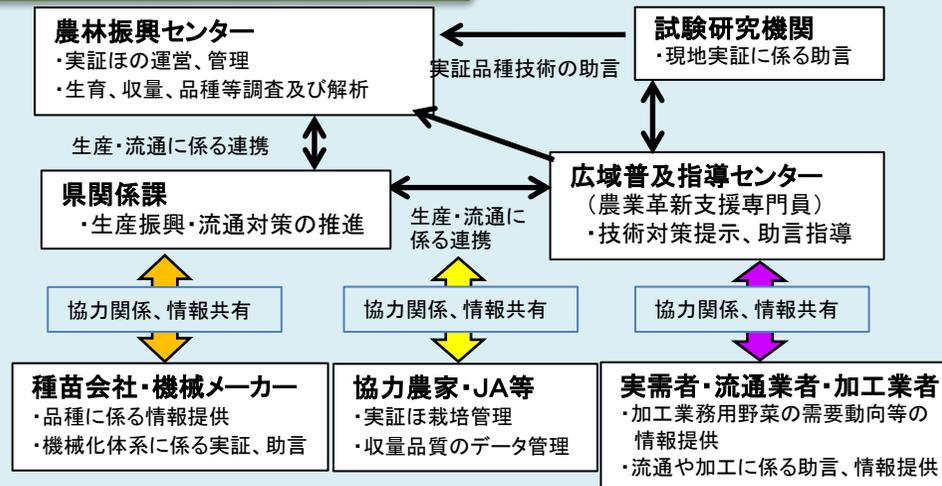
【検討会の開催等】

- ・生産者や実需者を対象とした現地検討会の開催
- ・実需者との意見交換会の開催、実需者へのサンプル提供とアンケート調査の実施
- ・安定生産技術について、課題の整理と今後の対応方策を検討

【先進地視察の実施】

・安定生産技術に係る県外先進地調査の実施

実施体制図



課題と今後の対応

【課題】

- ・ほうれんそうでは、県内の実需者ニーズに基づき、「冷凍加工」及び「ペースト加工」を試みたが、県内には対応できる加工工場がなく、県外の工場に委託した。このため、運送コストがかさみ、採算性のある物流・加工体制の構築が困難であることが明らかとなった。また、露地栽培のため、強風による茎葉折損が発生した。
- ・トマトでは、梅雨期の大雨による疫病の多発と、梅雨明け後の高温・高日射による日焼け果の発生により、収量は大幅に減少した。

【今後の対応】

- ・ほうれんそうでは、県内の業務用需要(宅配、外食店)を中心に、販路の開拓と流通体制の構築を図る。また、強風害を回避するため、トンネル栽培等を実証する。
- ・トマトでは、大雨による病害防止対策として、うね立て機を活用した高うね栽培を導入するとともに、保温効果の高いマルチやべたがけ資材を活用した生育促進を図り、梅雨明け前(7月上旬)からの収穫開始による収量確保を試みる。